

ホットソイル工法[®]により工場跡地が
安全な集合住宅用地へ。
Aマンション建設予定地 2005年

環境問題。意外にも
足もとが見過ごされていました。



Hazama

株式会社 間組 (ハザマ)
〒105-8479 東京都港区虎ノ門2-2-5 TEL.03-3588-5700
<http://www.hazama.co.jp/>

自然と人との架け橋。私たちは快適な空間を創造します。

これこそ人類全てが目標に掲げ、次世代に受け継がなければならないテーマです。私たち西松建設は、この精神を忘れず、これからも自然と技術が融合する環境づくりを目指します。



西松建設

〒105-8401 東京都港区虎ノ門1丁目20番10号
電話 03(3502)0232
<http://www.nishimatsu.co.jp/>

防災・減災を

建物と地盤

地盤が重要なのは、地震が起きた時に建物に振動を伝える

ではないか。だから、日本にはほんの少し前まで、サステナブルなコンパクトシティが確立された社会があったということでは、欧米に対して誇るべきことである。欧米に追いつき追い越せてこまで来たが、置いてきてしまった日本の良い文化を見直すには、ちょうどいいきっかけであるといえるのではないだろうか。

杭を打ち込まずにビルを地面の中に「浮かす」ように建てることもある。その場合、ビルは重心のバランスをとるためできる

で一般的に見られるコンクリートの杭を地中深く打つことは、液状化する地盤を飛び越えてその下の堅固な地盤で建物を支えることだから、地表近

まり液状化によつて建物が転倒することはない。ところが建物には、地中に設けられた水道管、下水管、ガス管などがつながっている。それら

が溶状化した地盤と一緒に動いて、建物との接続部分から外れてしまうことが多く見られた。トイレから砂まじりの水が吹

建物と地盤の関係について、まず根本に立ち返ってみてみると、震源が真下になくても建物が揺れるのは、地盤が振動を伝えてくるからである。一方で、地盤には固有振動数というものがあり、それに合致する振動が伝わると激しく地盤が共振する。また、建物にも固有振動数

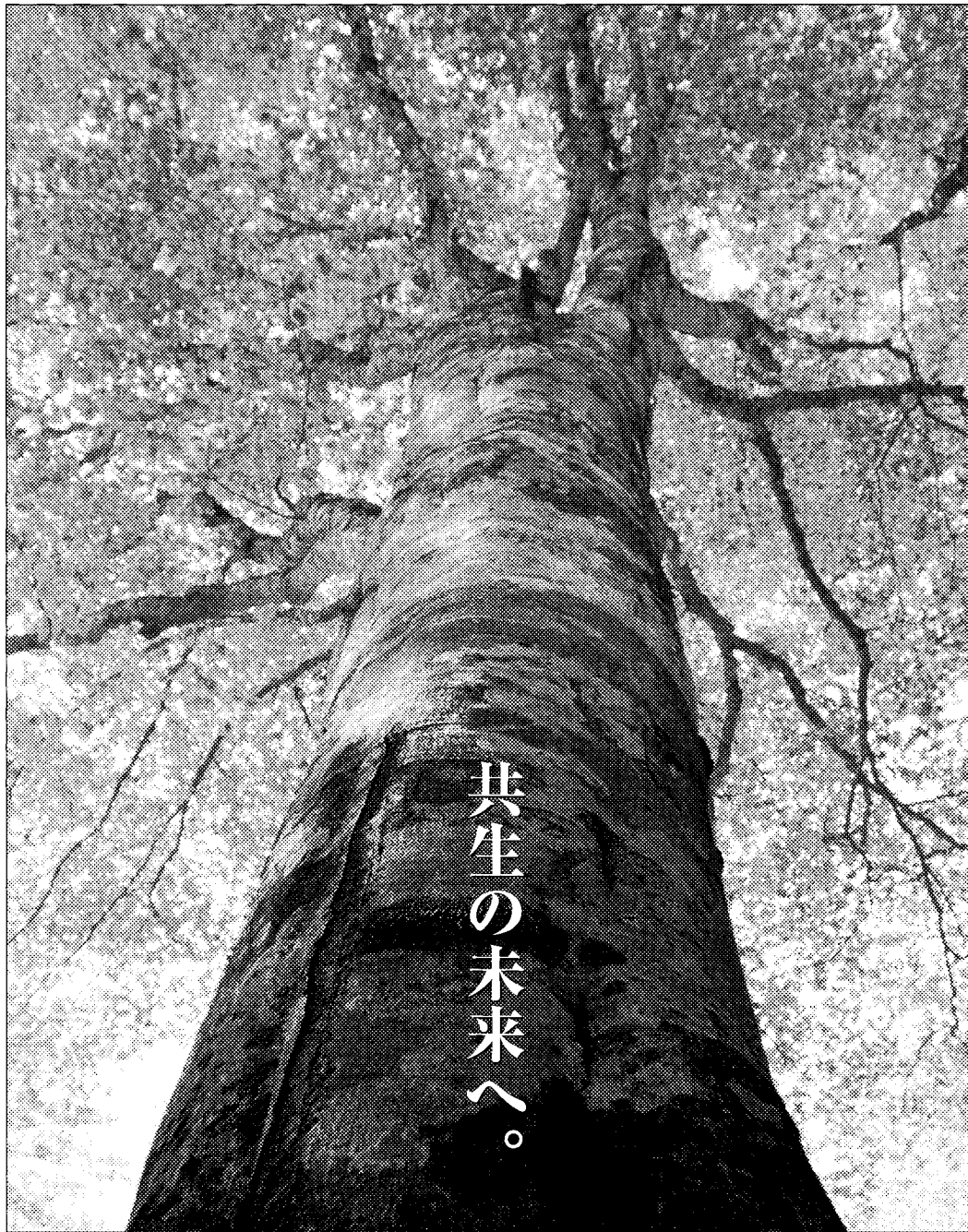


打つようになる前は、松クリットの杭を地中深く打つこと、木杭の密打ちを行なうことが一般的であった。これは、建物の基礎というよりも、地盤の改良であると考えた方がわかりやすい。例として、東京駅では1万8000本の杭丸太が使われている。

液状化対策として砂やコンクリートを杭状に圧入するなどの工法も用いられるが、基本的には、表層のわずかに1層の深度まででも硬化剤を撒くなどの地盤改良を施してあれば防げることが多い。

鶴見の埋め立て地にある養蚕地では、地盤改良

建設産業特集



共生の未来へ。



安藤建設

まだ生まれていない「他者へ、どんな環境を準備するか」今を生きている私たちが、未来に対して負うべき責任です。安藤建設は、人と自然が幸福に共存できる社会を目指し、次代に貢献する技術で多様なニーズにお応えします。

これからも、「悠久」への想いをカタチにするANDOです。

安藤建設株式会社
東京都港区芝浦 3-12-8 〒108-8544
TEL.03-3457-0111 (大代表)
ホームページ <http://www.ando-corp.co.jp/>



地球もMAEDAの大切なステークホルダー



MAEDA

前田建設

<http://www.maeda.co.jp>